

昭文社の子会社でカーナビ用地図ソフトの開発などを手がけるキャンバスマップル。山本幸裕社長は昭文社が持つさまざまな情報をデジタル化してカーナビを作りたいたいと考え同社の立ち上げに参画。カーナビ事業への参入は後発ながら、地図ソフトとコンテンツ提供では独自のポジションを築きつつある。山本社長に聞いた。(栗原浩之)

ホームセンターなどで売り込み

「地図ソフト「マップルナビ」を搭載したPNDが好調だ

「現在はPNDメーカー3社にマップルナビを提供している。最初の機種は2008年6月にユピテルから発売した。カー用品チェーンは大手メーカーに押さ

新流行創造

売れるモノ、人、店舗づくり



1986年慶應義塾大学商学部卒業。同年に入社。94年、パイオニアLDCに入社。その後、パイオニアに転籍し、ナビ事業に従事。2006年、キャンバスマップルに入社。09年に社長就任。東京都出身、48歳。

独自のコンテンツで業界活性化

キャンバスマップル 山本幸裕社長

標準搭載している。まっぷの情報は毎年10%ずつ更新しており、例えば、最近の東京の情報ならスカイツリー関連が検索しやすいように変わっている。ちなみにタイアップは含まず、すべて取材情報に基づいている。速く確実に道案内するだけでなく、寄り道も楽しかったことだ

ブランドになることを目指している。いまは3社だが、もう1社増やしたいと考えている。一方で、ソフト開発の品質を維持していくには4社が限界でもある」

「アンドロイドOSに対応した地図ソフトを開発中で年内に完成させる予定だ。スマートフォン(高性能携帯電話)を始め、カーナビ端末への搭載も見込んでいる。こちらでもスマートフォンをベースに渋滞ぬけみち情報を加え、まっぷの情報も盛り込む。また、PNDのデータの更新はタイムリーなコンテンツをウェブ上から提供することで行うことを計画している。PND市場は多少減るかもしれないが、専用機は必ず残る。今後もカーナビ業界の拡大につながる地図ソフトとコンテンツを開発していきたい」

えられてい

たので、新しい流通経

路を広げるべく、メーカーと一体となってテレビショッピングやホームセンターなどに売り込みをかけた。

「特徴は三つある。道路地図で圧倒的な販売シェアを持つ『スーパーマップル』を

冊分、8万件の編集情報を

持っている。3社を合計すればPND販売シェアは20%に達するのではないかと

「何が強みなのか」

「特徴は三つある。道路地図で圧倒的な販売シェアを持つ『スーパーマップル』を

「それは考えていない。当社にはハードを設計するプロダクトがない。ソフトとハードの品質管理はまったく異質で、手を出すと火傷することが見えている。信頼できるハードメーカーのパートナーとして、ダブル

を探しだせるようにした。タッチ数を減らし、直感的に使えるようにする狙いだ。写真を多く表示するようにし、地図上には見晴らしのよい場所のコメントも入っている。ほかにも、観光地に行った際に自宅に戻るルート設定すると現地のお土産を知らせるリコメン

「この連載は木曜日に掲載します

国内マーケット